

「公共施設へのアクセスルート ユニバーサルデザインガイドライン」を策定

～ 区民の声を活かし「わかりやすい」「歩きやすい」「使いやすい」整備を進めます～

バリアフリー化の現状と課題

建物、駅、道路等の
バリアフリー化は着実に進展

管理区分で それぞれ個別の整備が行われ
施設間をつなぐ観点が不足

- 相互のつながりが悪く、利用者にとって使いにくい。
- それぞれの施設のバリアフリー整備が効果的に活かされていない。



建物敷地と道路の境界で点字
ブロックがつながっていない。



エレベーターがある改札口が別にあること
が、案内標示でわからない。

更なる「外出しやすさ」に対する区民の期待

駅から
公共施設への
ルートに
望むこと

- 案内板がわかりやすい 障害者57.1%
 - 歩道などが広い 子育て世代70.4%
 - 疲れたら途中で休憩できる 高齢者57.1%
- (平成29年度 区役所来庁者へのアンケート調査)

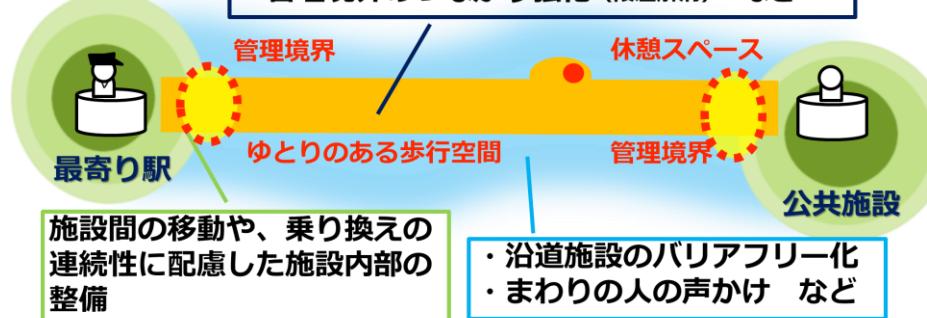
「公共施設へのアクセスルート ユニバーサルデザインガイドライン」

平成30年
8月策定

全ての人が安心、快適、自由に外出できる環境づくりのため、
配慮すべき事項を具体的に示す手引書

[アクセス ルートのイメージ]

- ・一貫した案内誘導（案内板・標識、点字ブロック）
- ・円滑な垂直移動（エレベーター、スロープ）
- ・管理境界のつながり強化（段差解消）など



ガイドラインに沿った 今後の取組

30年度

区民参加による点検等

- 関係施設へ改善等の要請
- アクセスルートの指定
改善方針のとりまとめ

31年度

モデル地区の改善整備



高齢者、障害者、乳幼児連れの方
と経路の点検を行い、改善方針を
とりまとめます。

各整備者や管理者に対し、
連続性に配慮した整備等を
促していきます。